

株主各位

証券コード：4552
2023年6月21日

兵庫県芦屋市春日町3番19号
JCRファーマ株式会社
代表取締役 芦田 信
会長兼社長

第48回 定時株主総会 事前質問ご回答

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本日開催いたしました当社第48回定時株主総会において、事前にいただきましたご質問に対し、下記のとおりご回答申し上げます。

敬 具

記

Q1:	新薬開発や製品の営業も他メーカーに頼るような経営方針を取るのか。また、中期経営計画では数値目標が示されていないため、将来の方向性について説明して欲しい。
A1:	<div data-bbox="316 936 1066 1496"><p>● 創業以来、希少疾病用医薬品の創出に注力 ● バイオ技術による「研究開発」と「モノづくり」に特化</p><p>2021 イズカーゴ® 販売開始 2019 ダルベポエチンアルファBS注「JCR」販売開始 2018 アガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」販売開始 2016 テムセル®HS注 販売開始 2014 血液脳関門通過技術「J-Brain Cargo®」命名 2010 エポエチンアルファBS注「JCR」販売開始 1993 グロウジェクト® 販売開始 1978 ウロキナーゼ原液 販売開始 1975 日本ケミカルリサーチ株式会社 設立</p><p>創業以来の売上高推移 ※2014年度以降は連結数値</p><p>希少疾病用医薬品 ウロキナーゼ グロウジェクト® テムセル® アガルシダーゼ イズカーゴ®</p><p>モノづくり力による製品 エポエチン ダルベポエチン</p></div> <p>当社の創業以来の売上高推移と、製品開発の歴史です。</p> <p>当社はバイオ医薬品の研究開発からモノづくりまで、自社で一貫して対応できる会社です。創業以来、希少疾病用医薬品の研究開発に注力しており、世界中の製薬会社でも希少疾病用医薬品に特化し研究開発を行っている会社は数が少ないと思っています。メガファーマといわれる製薬企業も、過去に幾度となく希少疾病に取り組むと言っては、採算性の高いブロックバスターの登場により、希少疾病の開発は中止する事を繰り返しています。その理由の一つが、メガファーマでは企業規模が大きいため希少疾病では採算が取れないという事です。しかしながら我々のような企業規模ならば、希少疾病の分野でも十分に利益を得ることができると考えています。</p>



● 希少疾病だからこそ、グローバル上市を目指す

J-Brain Cargo[®]適用ライソゾーム病治療薬パイプライン 想定患者数イメージ (JCR調べ 2023年6月時点)

薬剤名	地域	想定患者数
JR-141 MPS II	日本	150~200人
	グローバル	2,000~3,000人
JR-171 MPS I	日本	70人前後
	グローバル	3,000~4,000人
JR-441 MPS IIIA	日本	10人未満
	グローバル	1,000~2,000人
JR-446 MPS IIIB	日本	20人未満
	グローバル	500~1,000人
JR-443 MPS VII	日本	10人未満
	グローバル	100~200人
JR-479 GM2ガングリオシドーシス	日本	20人未満
	グローバル	1,000~2,000人
JR-162 ボンベ	日本	100~150人
	グローバル	10,000人以上
JR-471 フコシドーシス	日本	10人未満
	グローバル	100~200人

MPS: ムコ多糖症

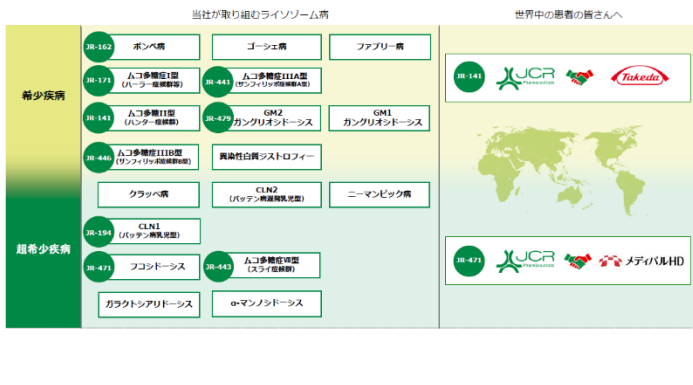
こちらは、当社が現在開発に注力しているライソゾーム病治療薬の判明している各疾患の患者数です。

希少疾病のため、日本国内だけでは患者数が数名から数十名、数百名ですが、世界規模では数千人の患者数がある疾患もあります。これがグローバルでの上市を目指していく大きな理由です。



● 各疾患の戦略・特性に応じて、最適な企業とのライセンス契約を実施

J-Brain Cargo[®]適用ライソゾーム病治療薬パイプライン



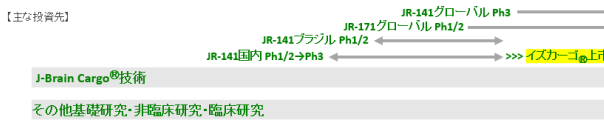
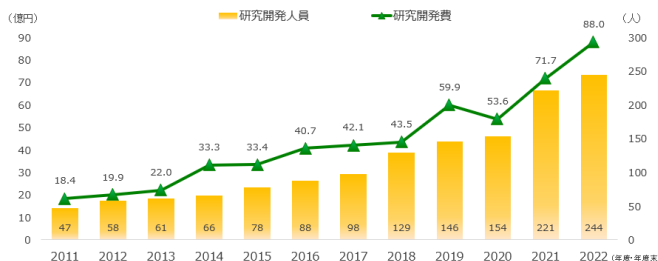
そのため、他社の協力を得ながら、グローバル開発を行う必要があります。

例えばムコ多糖症II型は、世界規模では患者数が多い疾患であり、2021年に武田薬品工業と契約を締結しました。一方で、世界でも患者数が数百名程度の超希少疾病と呼ばれる疾患については、メディパルホールディングスと契約を締結しました。

このように戦略に応じて、ライセンスの契約先をその都度検討して決定しています。これからも当社は他社との協業も考えながら、引き続き事業をおこなってまいります。



● これまでの研究開発への長期投資が、J-Brain Cargo[®]技術を創出
● 新たな技術や希少疾病用医薬品など、将来の利益の源泉に対し投資を継続



こちらは、2011年以降の研究開発費と研究開発に関わっている社員数の推移です。これまで、年ごとに研究開発費の増加と人員の増強を行ってまいりました。

先程のご説明のとおり、当社は今後も希少疾病用医薬品の研究開発を行うという点に変わ

	<p>りはありません。これまでの長期にわたる研究開発への投資が、J-Brain Cargo[®]技術を創出しました。この技術は自社での活用はもちろん、これまでに技術導出について複数の会社との契約の締結を行いました。また現在も複数の契約交渉を行っており、今後も我々に大きな利益をもたらすものだと考えています。</p> <p>このように研究開発費への投資は、新たな技術の創出や希少疾病用医薬品の開発など、将来の利益の源泉となるものであり、今後も引き続き積極的におこなっていきます。</p> <p>中期経営計画において数値目標を提示しませんでしたでしたが、我々の行っている研究開発は、非常に長い時間を要するものであり、短期的な利益の実現にこだわる以上に、積極的に研究開発を積み重ねて、着実に希少疾病という領域で新薬を創出していくことが、将来の十分な利益の達成につながり本当の意味で企業価値を向上させることが出来ると確信しています。株主の皆様のご理解をお願いいたします。</p>
--	--

Q2:	株式市場は全体的に好調であるにもかかわらず、当社の株価は低迷している。株価が向上するような施策を何か行っているのか。
A2:	<p>A1の通り、希少疾病の医薬品を患者の皆さんとそのご家族のために1日でも早くお届けする事が、我々の使命です。その使命を遂行することで長期的に企業価値を高め、株主の皆様の期待にお応えしてまいります。</p> <p>当社の目指す姿、研究開発の進展、設備投資の状況等について、今まで以上に株主の皆様にご理解いただけるよう情報発信に努めてまいります。</p>

Q3:	ノボノルディスクファーマの成長ホルモン製品の限定出荷・出荷停止は、JCRにどのような影響を与えるのか。
A3:	<p>成長ホルモン製剤の国内トップシェアである会社が限定出荷・出荷停止の状態になっているのは事実です。</p> <p>それに伴い、当社のグロウジェクト[®]が切り替え薬剤候補となっておりますが、当社は安定的な生産数量と十分な在庫水準を確保しており、切り替え要請に対応できると考えております。</p>

以 上